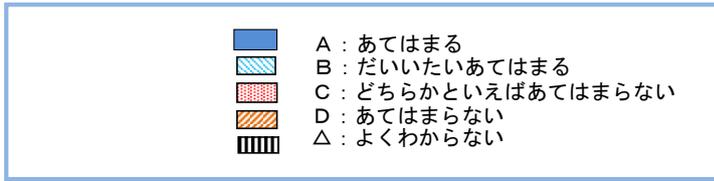


令和6年度 学校アンケート集計結果

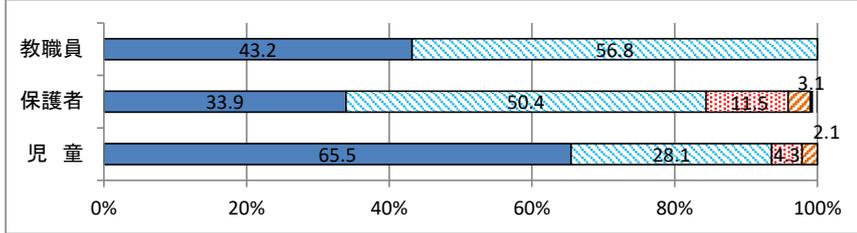
児童回答数 542 人 / 565 人 (回答率 95.9%)
 保護者回答数 400 人 / 565 人 (回答率 70.8%)
 地域回答数 9 人 ※学校運営協議会及びPTA会長
 職員回答数 44 人



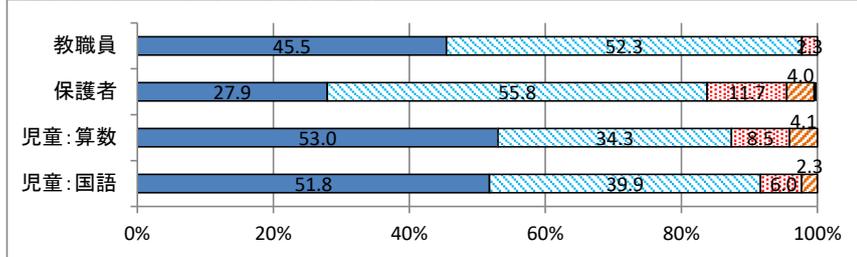
(↑・↓) 昨年度比 3~9% 高低
 (↑・↓) 昨年度比 10%以上 高低
 (⇔) 昨年度と同等

【集計結果を基にした考察】

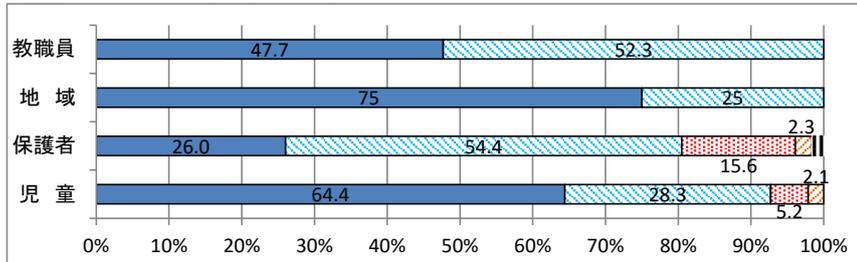
① 教員の分かりやすい授業の実施



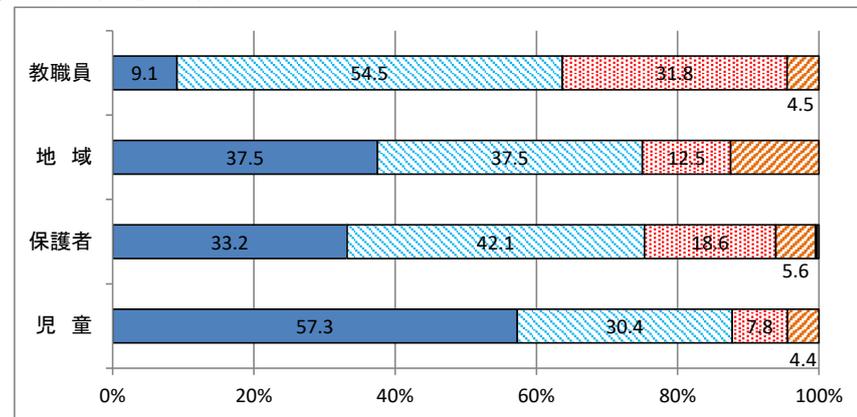
② 教員の基礎基本定着への指導(国・算)



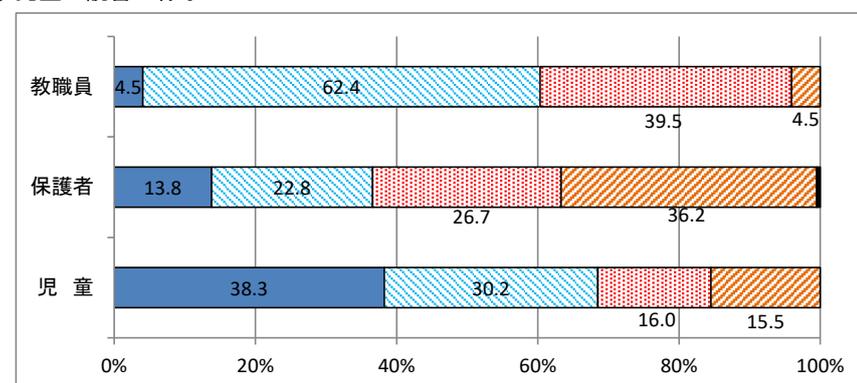
③ 児童一人一人へのきめ細かな対応



④ 児童のあいさつの様子



⑤ 児童の読書の様子



①~③の取組について

すべての職員が、常に児童一人一人を大切に
 した指導を行い、分かりやすい授業を心が
 けており、児童の評価も概ね良い傾向にある。

- ① 分かりやすい授業 A+B 100% (⇔)
- ② 基礎基本の定着 国語A+B 91.7%(⇔)
算数A+B 87.3%(⇔)
- ③ 一人一人へのきめ細かな対応
A+B 100%(⇔)

昨年度と同様に、保護者の評価は職員と比
 べてやや低いですが、多くの保護者が、学校は分
 かりやすい授業や基礎基本の定着のための
 指導を行っていると感じていただいていること
 がうかがえる。児童の学習理解がより深まるよ
 う、算数科を中心にプリントやICTを活用して学
 習内容の習熟を図ったり、課題となる内容に
 戻って学習したりすることの積み重ねの成果
 であると考え。今後さらに、授業参観等を通
 じて、学校の取組を理解していただけるよう努
 めていくとともに、教師自身が常に教材研究を
 進め指導力向上をすするとともに、児童の意欲
 や集中力を高める工夫等を実施していきたい。

④ 児童のあいさつについて

教職員 A+B 63.6%(⇔)
 地域 A+B 77.8%(↑)
 保護者 A+B 75.3%(↑)
 児童 A+B 87.7%(⇔)

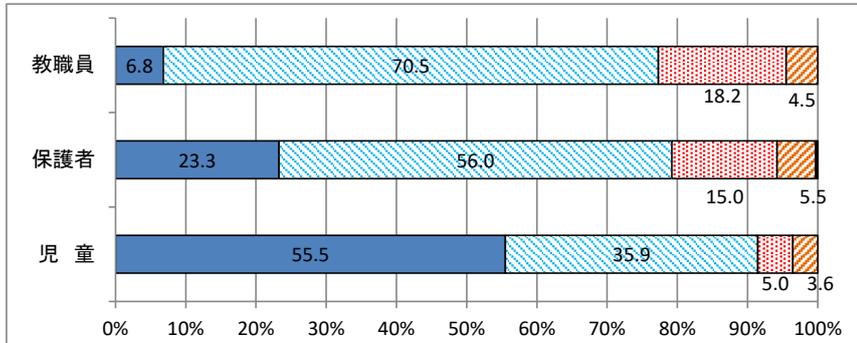
保護者評価が4.1ポイント上がった。相手に
 伝わるようにあいさつをする、相手の目を見て
 あいさつをするなどの具体的な指導に加えて
 あじさい委員が中心となってあいさつ運動に
 継続して取り組んできた成果と考える。なお、
 集団でのあいさつはよくできていても、登下校
 時などに一人になった際のあいさつに個人差
 が見られるので、家庭と連携しながら、あいさ
 つの意識を高め実践できるよう、継続指導して
 いきたい。

⑤ 児童の読書について

教職員 A+B 66.9%(↑)
 保護者 A+B 36.6%(↓)
 児童 A+B 68.5%(↓)

「読書」については、教職員評価が16.9ポ
 イント上がったが、保護者評価が36.6%と昨年
 度よりもさらに低い結果となった。学校での児
 童の様子から、図書室で毎週2冊の本を借り
 て読んだり、おはなし会の方々による読み聞
 かせの時間を楽しみにしている児童が多く見
 られる。今後は、学校だけでなく家庭におい
 てノーマディアデーの設定や親子読書など、本
 に親しむ機会を意図的に取り入れていきたい
 と考える。

⑥ 約束事やルールへの遵守

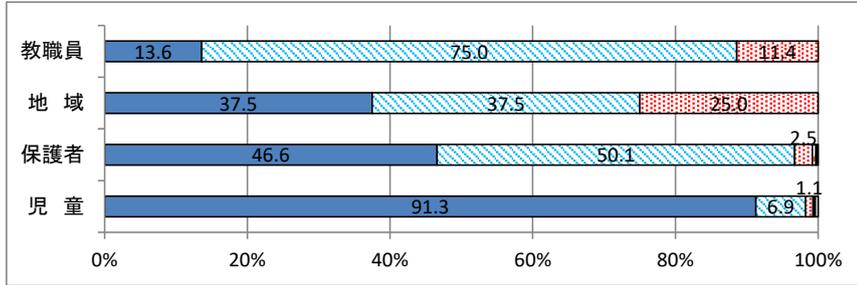


⑥ 約束事やルールへの遵守

教職員	A+B	78.3%(⇔)
保護者	A+B	79.3%(↓)
児童	A+B	91.4%(⇔)

ここ数年、同様の結果であるが、職員と児童の間で乖離が見られる傾向がある。学校生活上のきまりなどについては、各学級で日々徹底した指導を行っている。さらにきめ細かな指導できるよう、全職員で共通理解・共通指導を行うとともに、保護者とも連携をしながら継続指導していきたい。

⑦ 児童の友達との様子

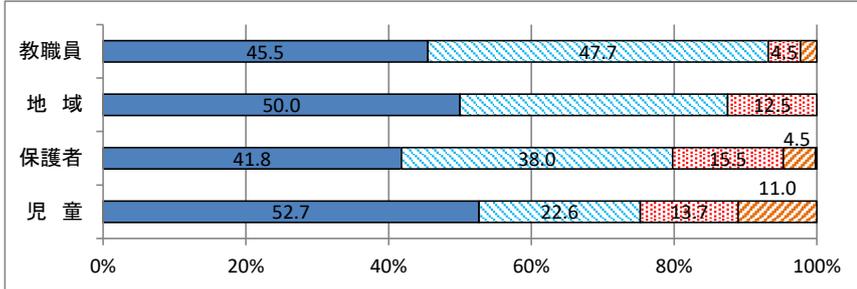


⑦～⑧ 友だちとの様子・外遊びについて

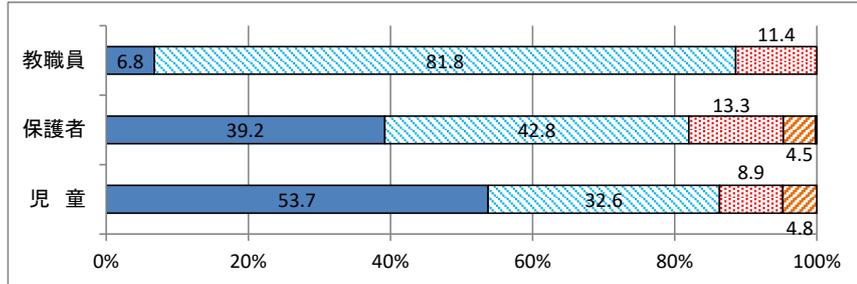
	⑦	⑧
教職員	A+B 88.6%(⇔)	93.2%(↑)
地域	A+B 77.7%(↓)	88.9%(↑)
保護者	A+B 96.7%(⇔)	79.8%(↓)
児童	A+B 98.2%(⇔)	75.3%(↓)

本校の児童は、友達とよく関わり、積極的に屋外で遊んでいる様子が見られる。しかし、児童同士のトラブルが発生したり、遊び方が悪く近隣の方から注意を受けたりすることもあった。学級遊びや縦割り班活動等を工夫し、遊びのルールを守ることや、時と場に応じて相手を思いやりながら楽しく遊べる力を育てていきたい。また、事故や事件にならない遊び方についても指導を続け、集団で遊ぶ楽しさを伝えていきたい。

⑧ 児童の外遊び



⑨ 早寝・早起き・朝ご飯の習慣化

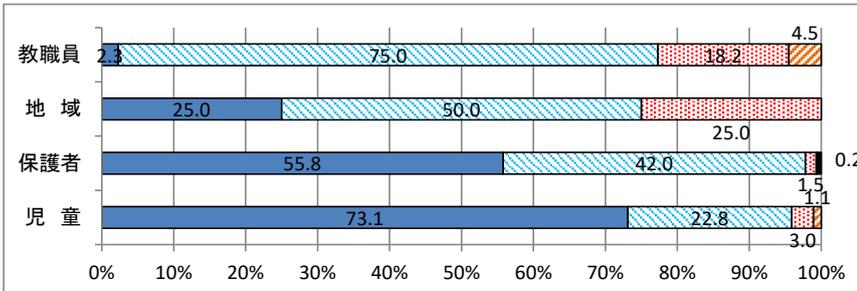


⑨ 早寝・早起き・朝ご飯について

教職員	A+B	88.6%(⇔)
保護者	A+B	82.0%(↓)
児童	A+B	86.3%(⇔)

概ね基本的な生活習慣は定着が図れていることがうかがえるが、朝から体調不良を訴えてくる児童や遅刻してくる児童も見られる。保護者・児童に対し、睡眠や食事の大切さを今後も継続して伝える必要がある。

⑩ 交通ルールの遵守と安全な登下校



⑩～⑪ 交通ルールの遵守と

自転車の乗り方について

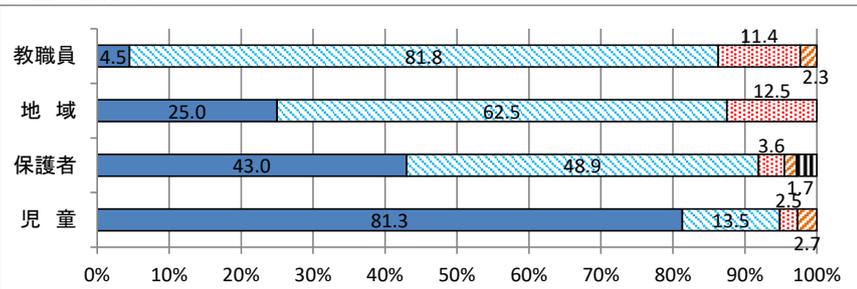
	⑩	⑪
教職員	A+B 77.3%(↑)	86.3%(↑)
地域	A+B 77.8%(⇔)	88.9%(⇔)
保護者	A+B 97.8%(⇔)	91.9%(⇔)
児童	A+B 95.9%(⇔)	93.8%(⇔)

昨年度よりも教職員の肯定的評価の割合が非常に高くなった。日々の登下校時における指導や、保護者や地域の方々との連携・協力による成果と考える。

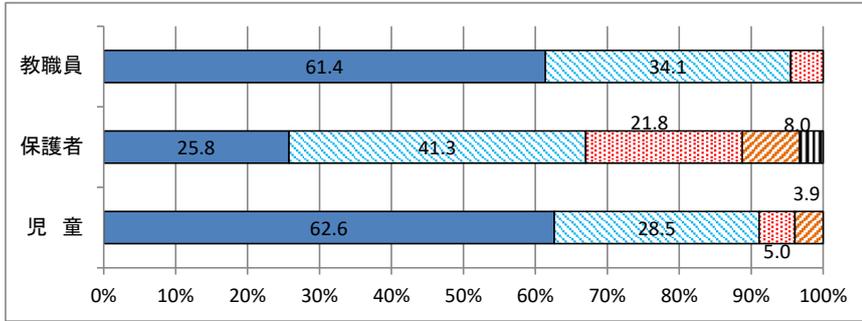
時折、大人の目が届かない所でルールが守れず危険な行為等をしていることがある。命の大切さや公德心を高めていくように継続指導していきたい。

なお、登下校の安全や自転車の乗り方、地域での遊び方等については、学校での指導に限界があるため、今後も家庭や地域において日々声を掛けていただき、地域全体で子どもの安全を見守っていく必要がある。

⑪ 安全な自転車の乗り方



⑫ 善悪の判断の指導

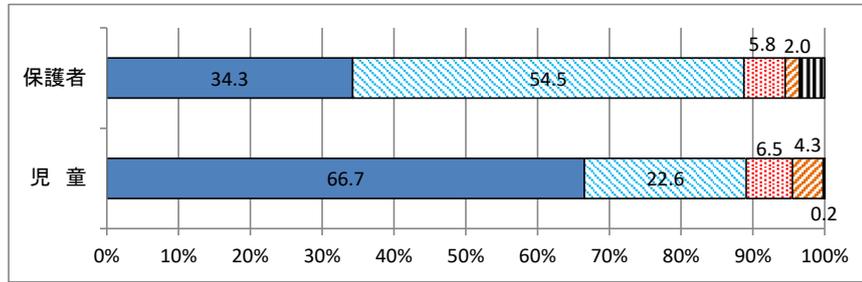


⑫ 善悪の判断の指導について

教職員 A+B 95.6%(↓)
 保護者 A+B 67.1%(↓)
 児童 A+B 97.1%(⇔)

保護者評価が30.2ポイントも下がった。学校では、児童の判断力を高めるために、そして実践力が育つように教育活動全体で道徳教育を強化している。今後はさらに、具体的な場面で指導を日常化し、学校と家庭が同一歩調で指導できるよう進めていきたい。

⑬ 将来の夢や進路について話し合っている。

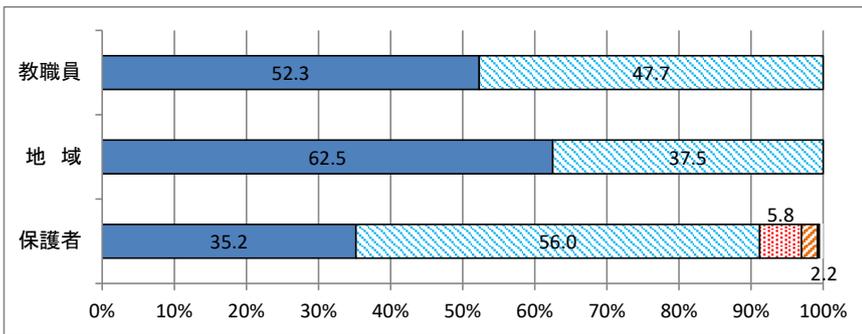


⑬ 将来の夢や進路について

保護者 A+B 88.8%(↑)
 児童 A+B 89.3%(↑)

昨年度よりも保護者・児童ともに大幅に高い評価となった。将来の夢などについて話し合う機会を設けている家庭が増加したことがうかがえる。学校ではいろいろな面で夢をもって頑張るすばらしさを実感させたい。併せて、家庭で児童と保護者が語り合えるきっかけづくりをさらに進めていきたい。

⑮ 学校の情報発信

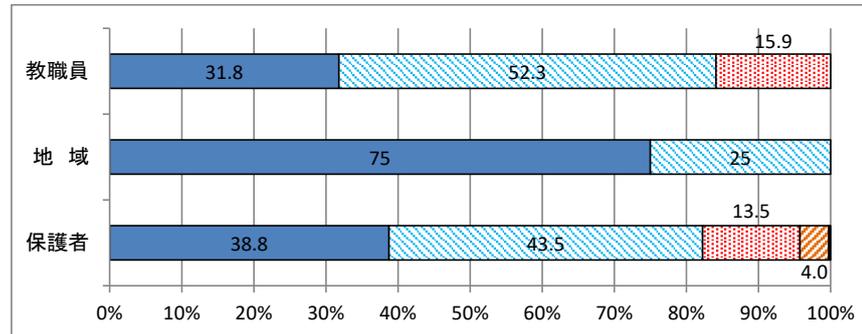


⑭～⑯ 学校の情報発信と
家庭・地域との連携、協力について

⑮
 教職員 A+B 100%(↑)
 地域 A+B 83.3%(⇔)
 保護者 A+B 91.2%(⇔)

たよりやメール等を通じて、様々な情報を提供してきた。特に、今年度は各種たより等をメールに添付しての周知にも努めてきた。児童には、配付物をきちんと家庭へ届けることや保護者にはしっかり読んでもらうことが必要である。

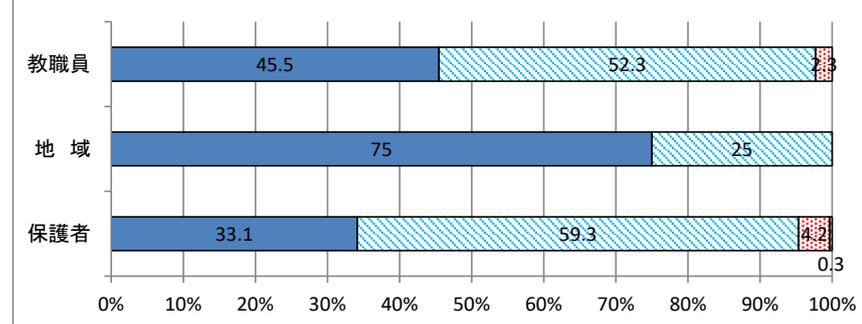
⑭ 家庭・地域との連携・協力



⑭ ⑯
 教職員 A+B 84.1%(⇔) 97.8%(⇔)
 地域 A+B 100%(⇔) 100%(↓)
 保護者 A+B 82.3%(↓) 92.4%(↓)

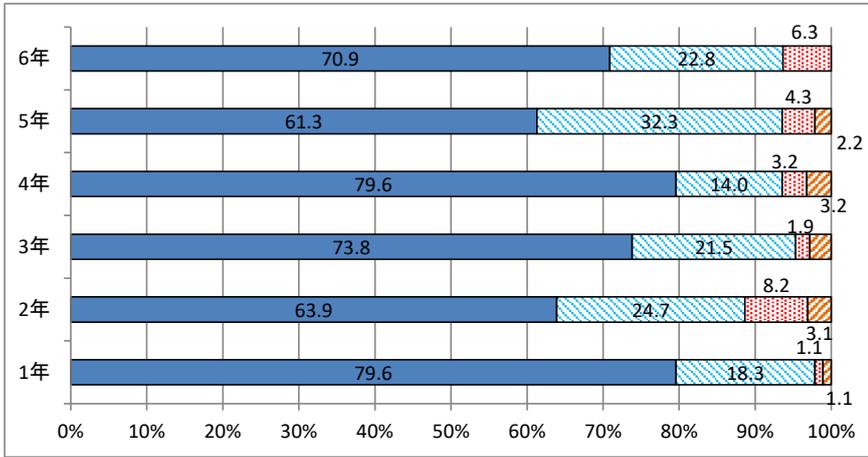
今年度は職員室コネクサービスからグループフォームを活用し、より多くの学校支援ボランティアや保護者の方々に、様々な教育活動にご協力いただくことができた。参加したボランティアの方々からは、「学校での子どもたちの生き生きとした様子から、自身の励みに繋がった。」等、大変好評だった。

⑯ 学校は、教育活動や学校運営などに関して地域と連携・協力を適切に行っている。



今後さらに学校運営協議会・学校支援ボランティアの方々と連携を図りながら地域とともにある学校づくりを目指し、継続していきたい。

⑰ 学校は楽しいか

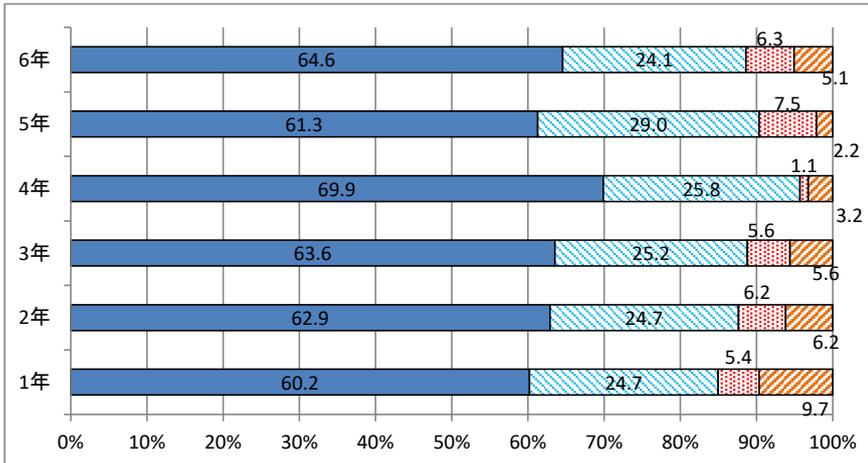


⑰ 「学校は楽しいか」について

A+B 1年生 90.1% 2年生 98.8%
 A+B 3年生 92.4% 4年生 87.9%
 A+B 5年生 93.6% 6年生 93.7%

学校全体で見ると93.7%の児童が楽しいと答えている。このことは、児童一人一人が自己肯定感や自己有用感を実感できるような好ましい集団づくりの実践に努めた結果と考える。楽しくない傾向にある児童については早々に状況把握をしたり、Q-Uを生かした教育相談を意識して進めたりして、安心感や居がいのある環境づくりに努めたい。また学習への意欲等においても向上することで、楽しく有意義な学校生活が送れると考えられるため、指導の工夫等が必要である。

⑱ 家庭での学校の話

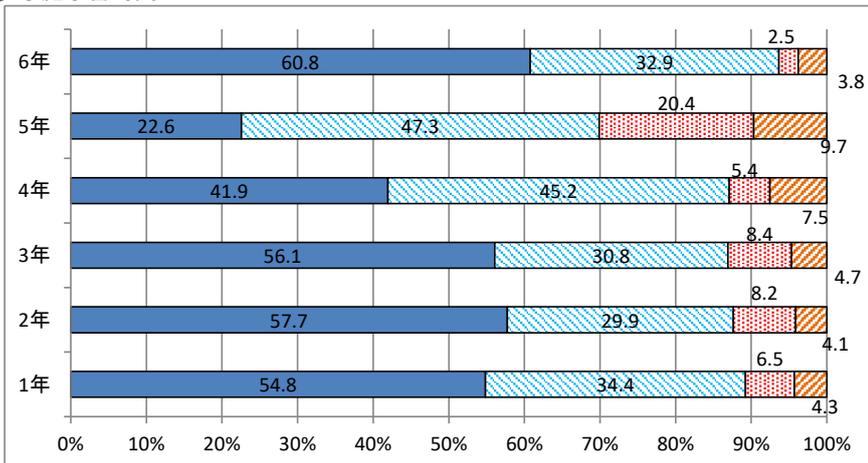


⑱ 家庭での学校の話について

A+B 1年生 84.9% 2年生 87.6%
 A+B 3年生 88.8% 4年生 95.7%
 A+B 5年生 90.3% 6年生 88.7%

学校全体で見ると、89.3%の児童が家庭で学校の話をしてしていると答えている。家庭における会話を大切に、児童の様子を学校と家庭と両方で把握していきたい。親子ふれあいウィークを生かして、話す時間や内容を学校から提案してみたり、様々な便り等で情報を発信したりして、親から子へ話題を作れるようにしていきたい。

⑲ 家庭学習時間



⑲ 家庭学習時間について

A+B 1年生 89.2% 2年生 87.6%
 A+B 3年生 86.9% 4年生 87.1%
 A+B 5年生 69.9% 6年生 93.7%

家庭の学習時間については、「学年×10分+10分」を学校として取り組ませている。児童によって取組状況の差が大きい。内容の量だけでなく、その児童がどう取り組むと良いかなど質の向上を目指した助言が必要であり、日々の積み重ねが大切であることを伝えていきたい。担任や校長の励ましもあり、自主学習に取り組む児童は多い。さらに積極的に取り組む児童を増やすために、自主学習の例を示すなどして学年に応じて取り組めるようにしたい。学年・学級に差があるので、すべての担任が自主学習を奨励できるようにしたい。